

国際総合フレートフォワーダーをめざす



個人投資家様 向け  
会社説明会

2010年12月11日



内外トランスライン株式会社

銘柄コード 9384 (東証二部)

## ◆内外トランスラインは

# NVOCC

外航海運利用運送業  
Non-Vessel Operating Common Carrier

わたしたちは、お客さまに**最適・最速の**  
**輸送サービス**を提供する**国際海上輸送の**  
**プロ**です。

NVOCCとは

船舶を所有せず、船会社のスペース（船腹）を借りて利用し、お客さまの貨物を海上輸送する事業者を指します。

# I. 会社概要

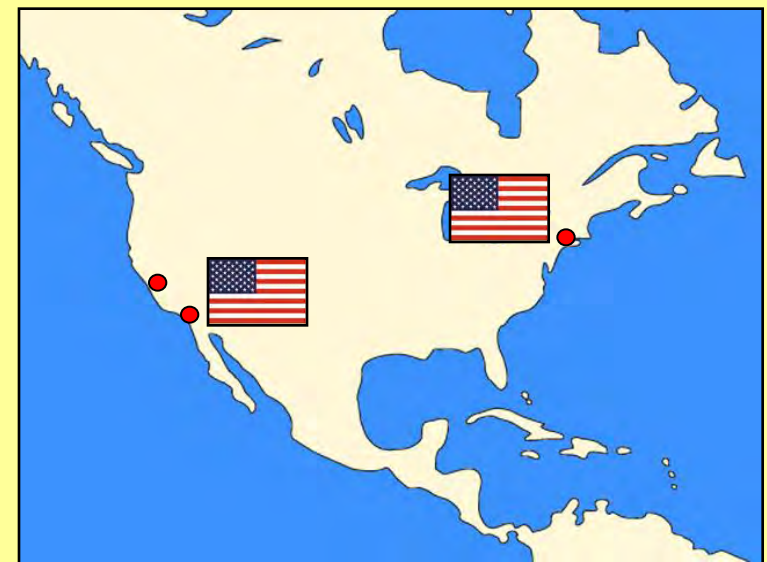
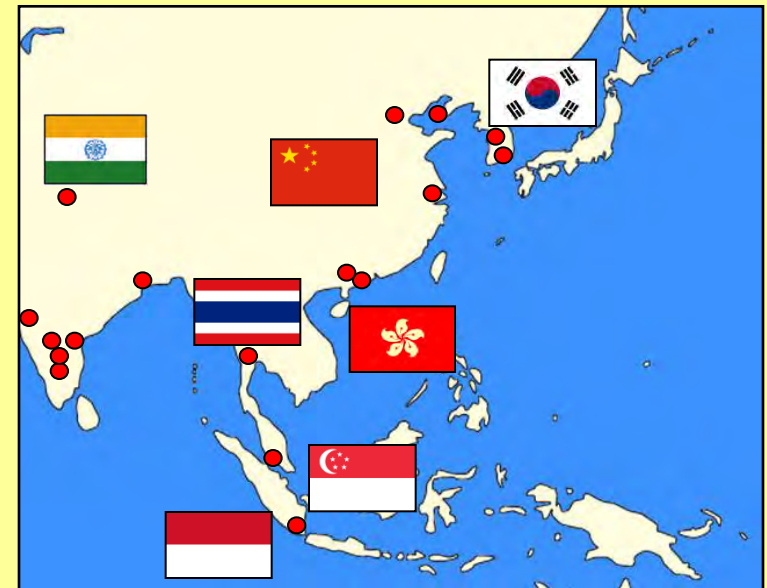


## ◆会社概要

社名	内外トランスライン株式会社
設立	1980年5月1日
代表取締役社長	戸田 徹
本社所在地	大阪府中央区安土町3丁目5番12号
資本金	1億6,673万円（2010年11月末現在）
従業員数	328人（連結、2010年9月末現在）
事業内容	外航海運利用運送事業（国土交通省: 運貨326・123号） 海陸複合一貫輸送業 陸上運送取次業 船舶代理店業
銘柄コード	9384（東証二部）

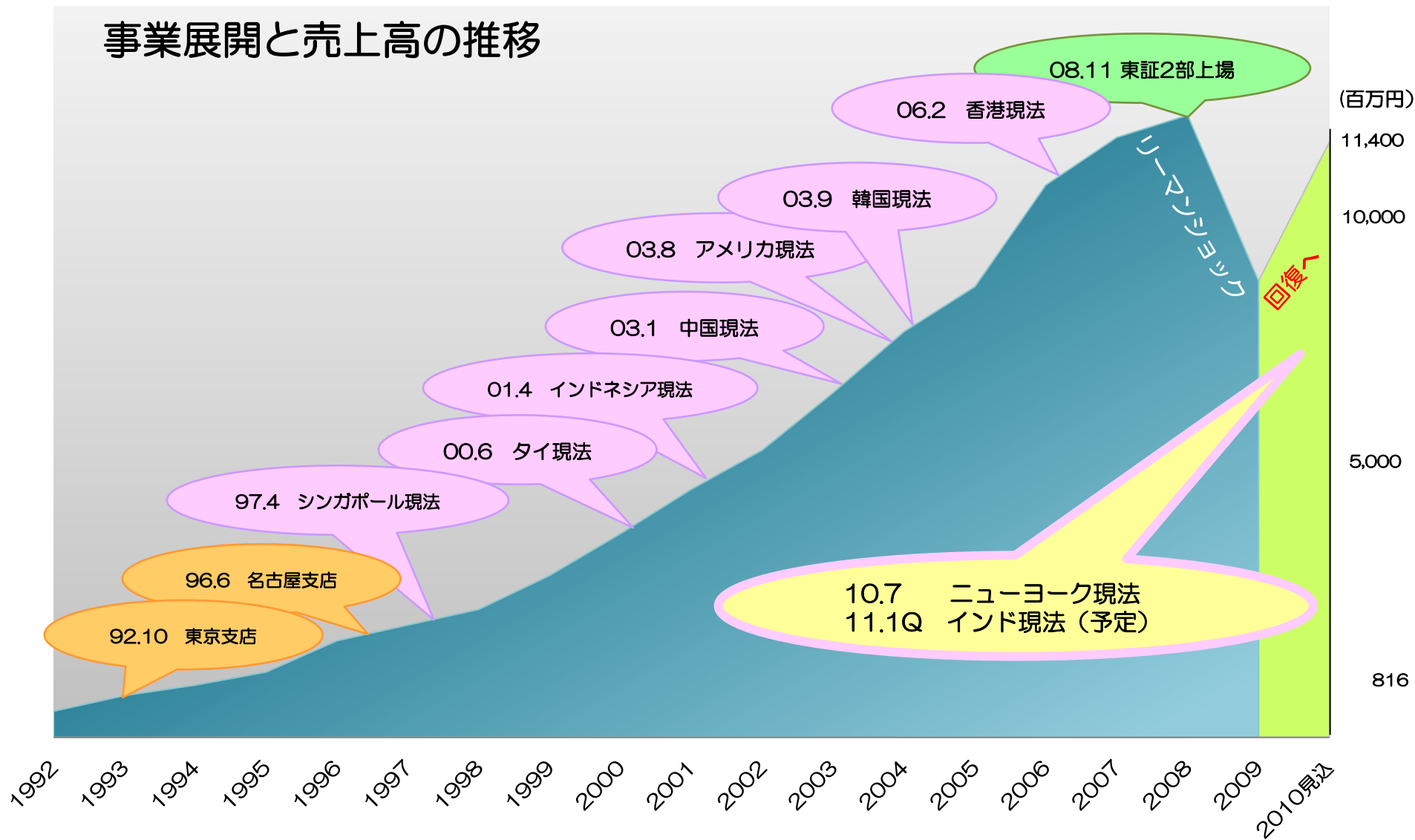
# ◆会社の沿革 おかげさまで30年

- 1980年5月 「内外 SHIPPING 株式会社」設立
- 86年12月 現社名に商号変更
- 90年11月 神戸営業所（現神戸支店）を開設
- 91年12月 第一種利用運送事業（外航海運）許可
- 92年10月 東京営業所（現東京支店）を開設
- 96年06月 名古屋営業所（現名古屋支店）を開設
- 97年04月 シンガポールに現地法人設立
- 98年08月 横浜営業所（現横浜支店）を開設
- 99年09月 九州営業所（現門司事務所）を開設
- 2000年4月 福岡営業所を開設
- 00年06月 タイに現地法人設立
- 01年04月 インドネシアに現地法人設立
- 03年01月 中国に現地法人設立
- 03年08月 アメリカに現地法人設立
- 03年09月 韓国に現地法人設立
- 04年06月 広島営業所を開設
- 06年02月 香港に現地法人設立
- 08年11月 東京証券取引所市場第二部に上場
- 09年02月 中国現地法人 大連支店開設
- 09年10月 国内子会社「グローバルマリタイム株式会社」設立
- 10年02月 中国現地法人 広州支店開設
- 10年05月 会社設立30周年**
- 10年07月 米国New York州、Cargo One社を買収
- 11年01月 インド LPI社買収(予定)



# ◆当社成長の歩み

## 事業展開と売上高の推移



# ◆経営理念・企業ビジョン

## 経営理念

私たちは国際貨物輸送事業において、相互扶助の精神とお客さま第一主義を貫き、より質の高いサービスを提供し、安全、確実な輸送を世界に提供してゆきます。

## 企業ビジョン

- ・ ベストな物流商品とサービスを提供し、心のこもったコミュニケーションを大切にする企業
- ・ 健全な組織と高い生産性を持ち、成長を続ける企業
- ・ 働く者すべてが互いに高め合い、生き生きと仕事をし、未来の更なる豊かさを追求する企業

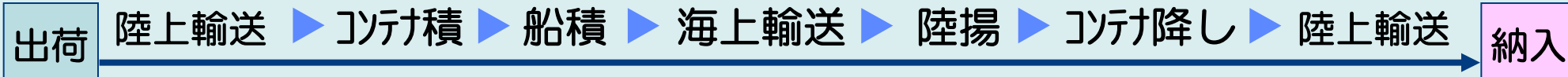
## Ⅱ. 事業内容



1. 当社事業フロー
2. LCLとFCL
  - ・ LCL比率
3. 当社事業の特徴



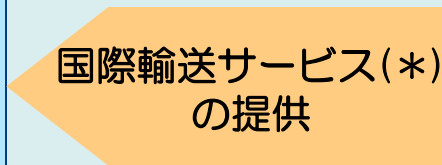
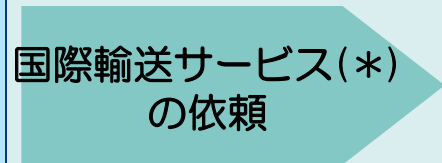
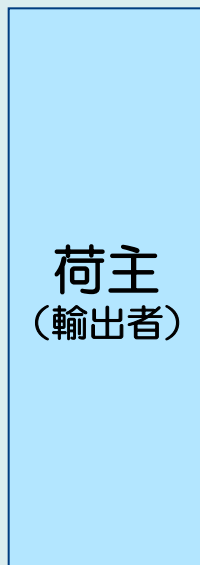
# ◆当社事業フロー（輸出）



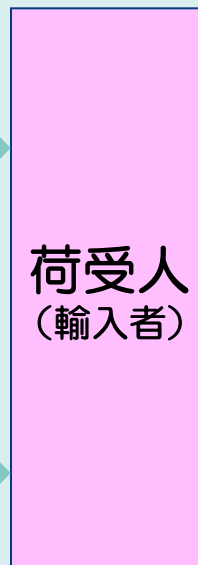
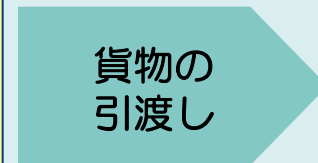
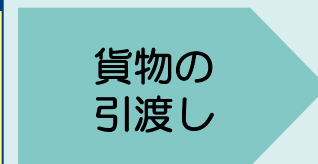
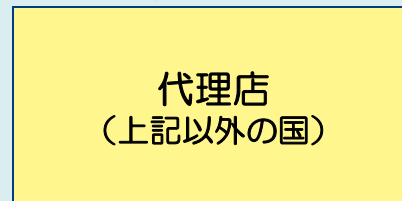
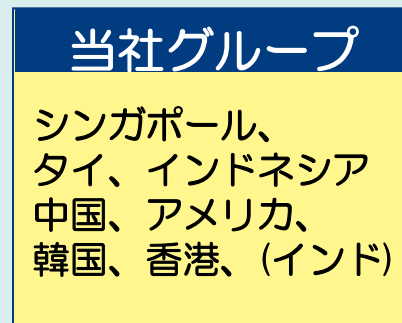
仕入先（船会社・倉庫会社など）

発注 仕入

発注 仕入



海上輸送



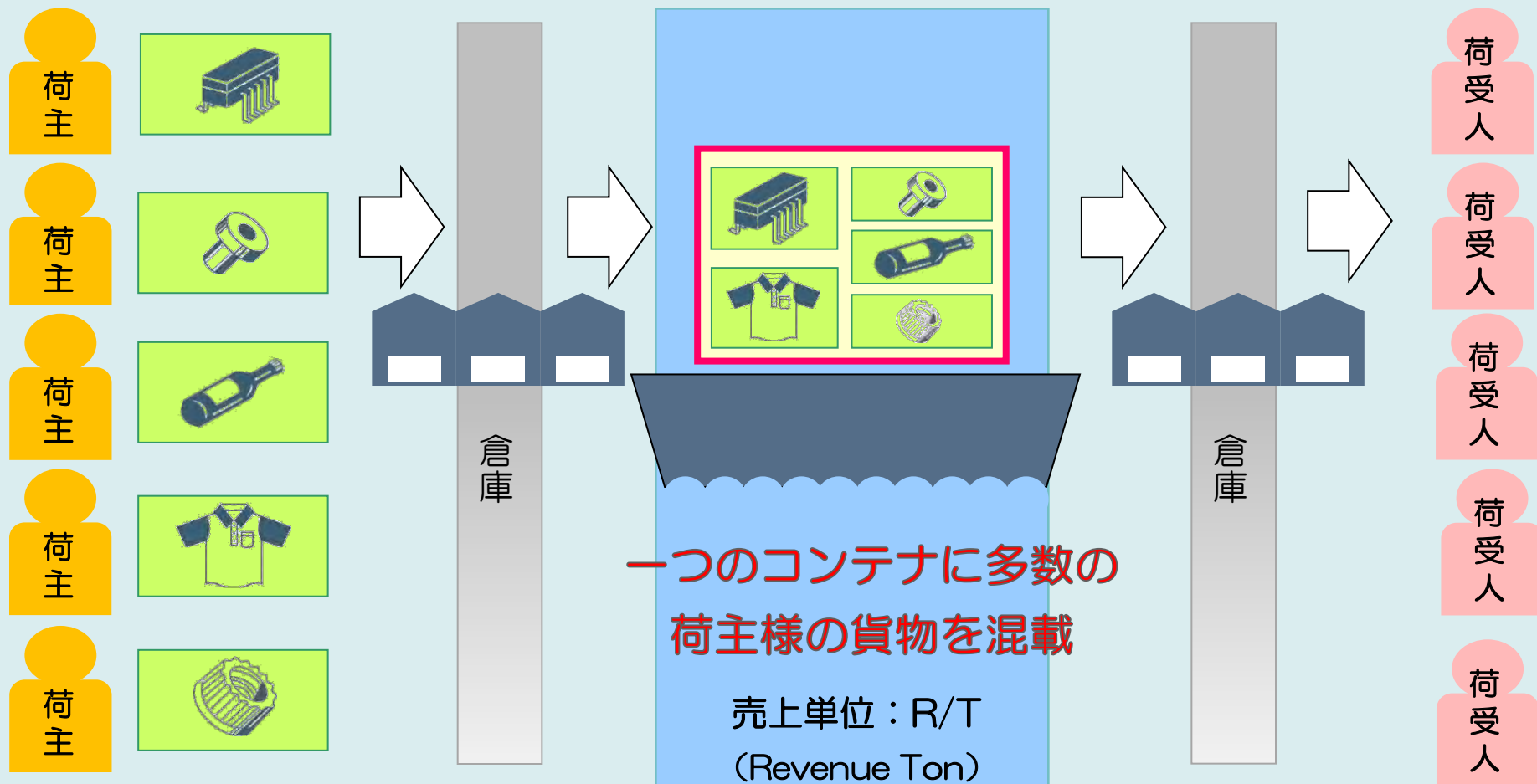
日 本

輸 入 国

\*フルコンテナサービス（FCL）または混載サービス（LCL）

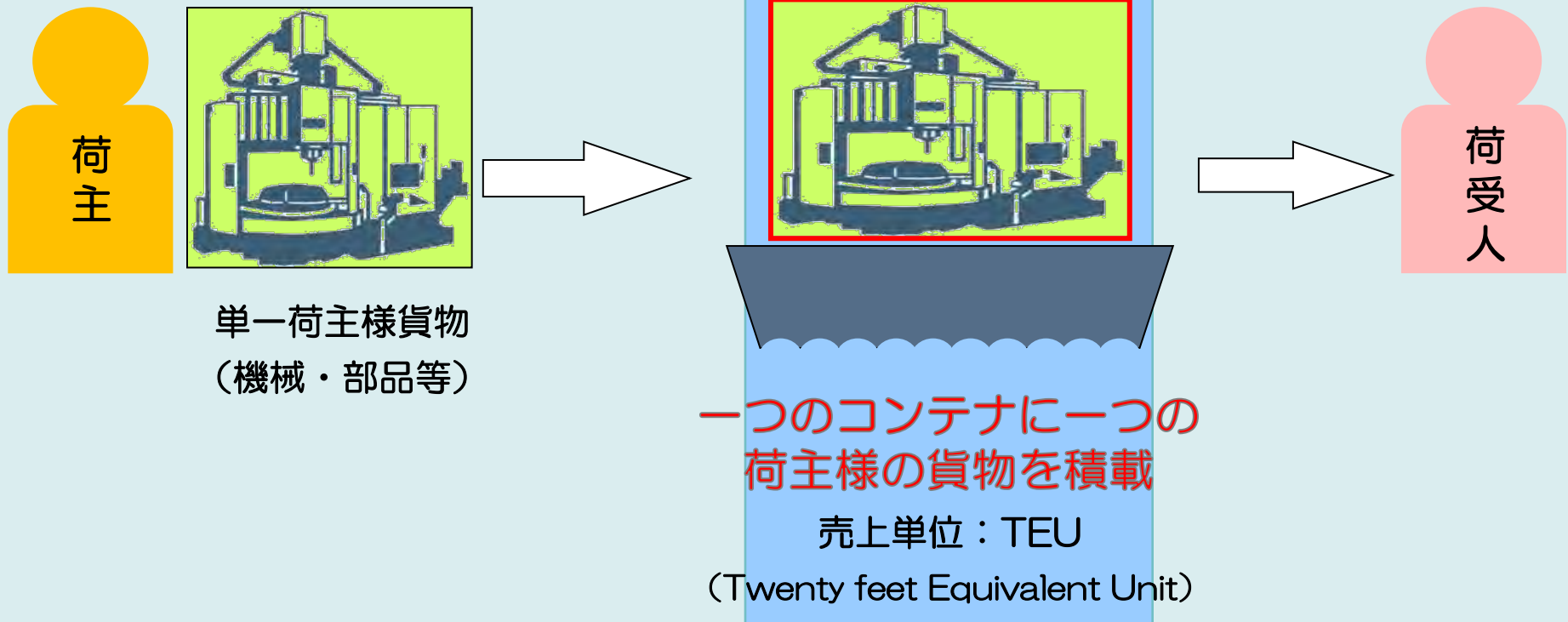
# ◆ LCLとFCL コンテナ輸送の2形態

## ① 混載輸送 (LCL = Less than Container Load)



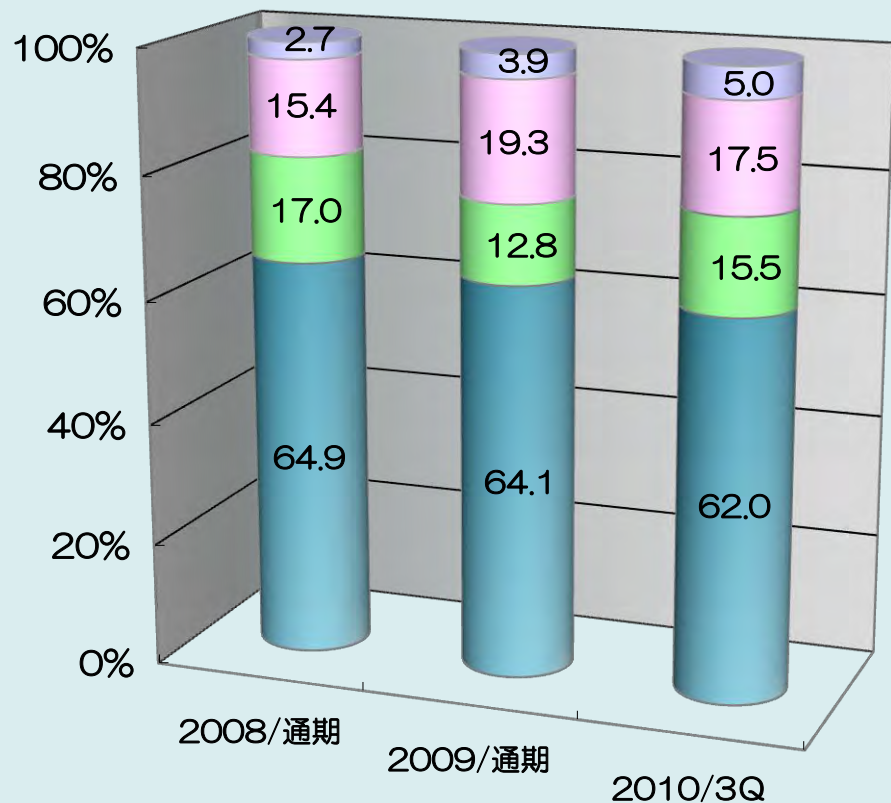
# ◆ LCLとFCL コンテナ輸送の2形態

## ② フルコンテナ輸送 (FCL=Full Container Load)



# ◆当社における輸出LCLの比率(単体)

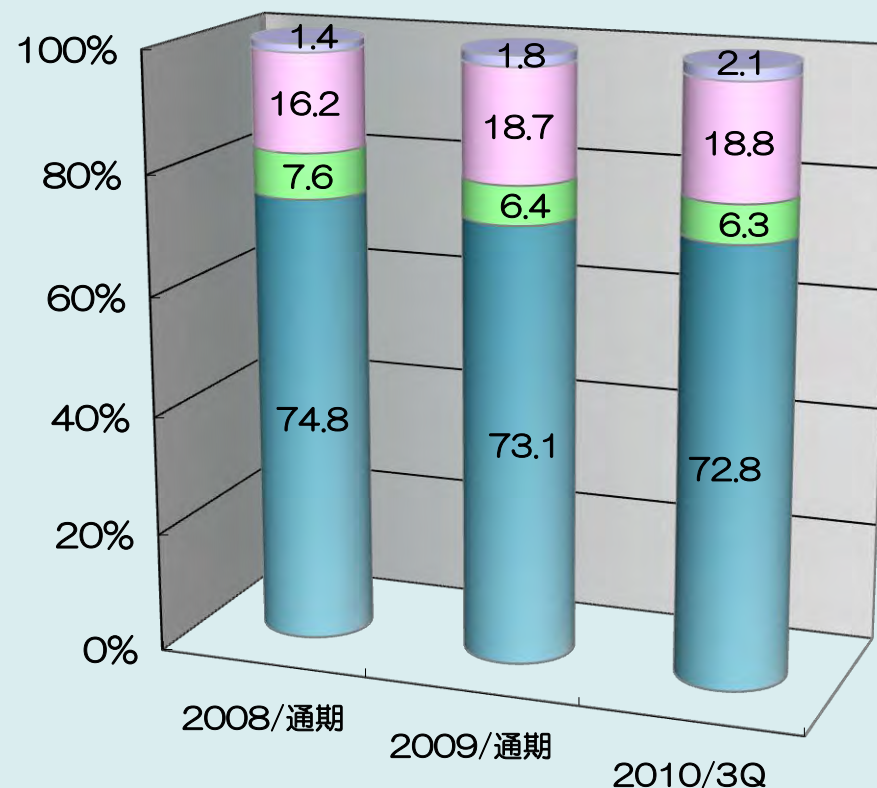
## ●売上高



輸出入合計	10,168	7,054	6,765
-------	--------	-------	-------

## ●売上総利益

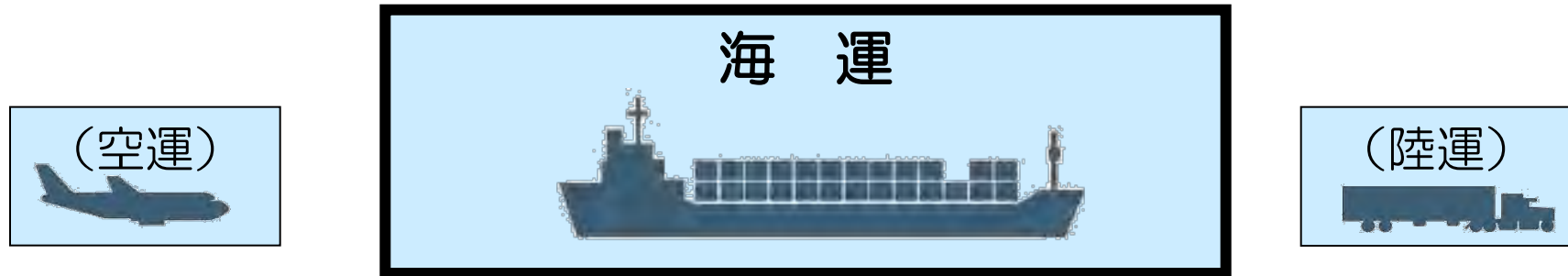
■輸出 LCL ■輸出 FCL ■輸入 LCL ■輸入 FCL



輸出入合計	2,973	2,364	1,987
-------	-------	-------	-------

(単位:百万円)

# ◆当社の事業内容（まとめ）



当社は独立系、ノン・アセットの運輸事業者です  
NVOCC

当社事業の特徴

\* 国際海上輸送に特化している

\* 船舶は保有していない

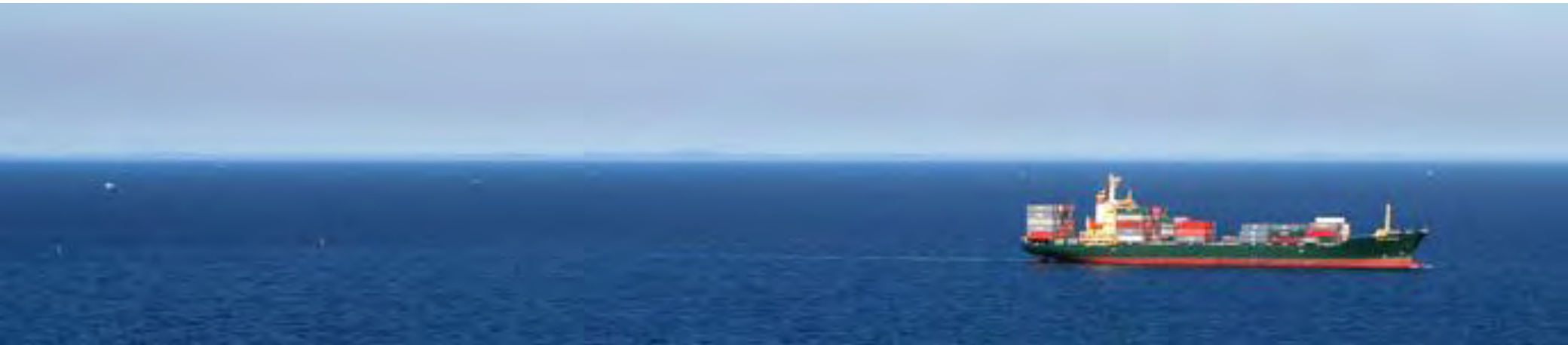
\* コンテナ混載輸送（LCL）が主力

\* 輸出LCLでは国内屈指のシェア

\* 世界へ向けての豊富な運航スケジュール

\* 高品質サービスで顧客の信頼を得ている

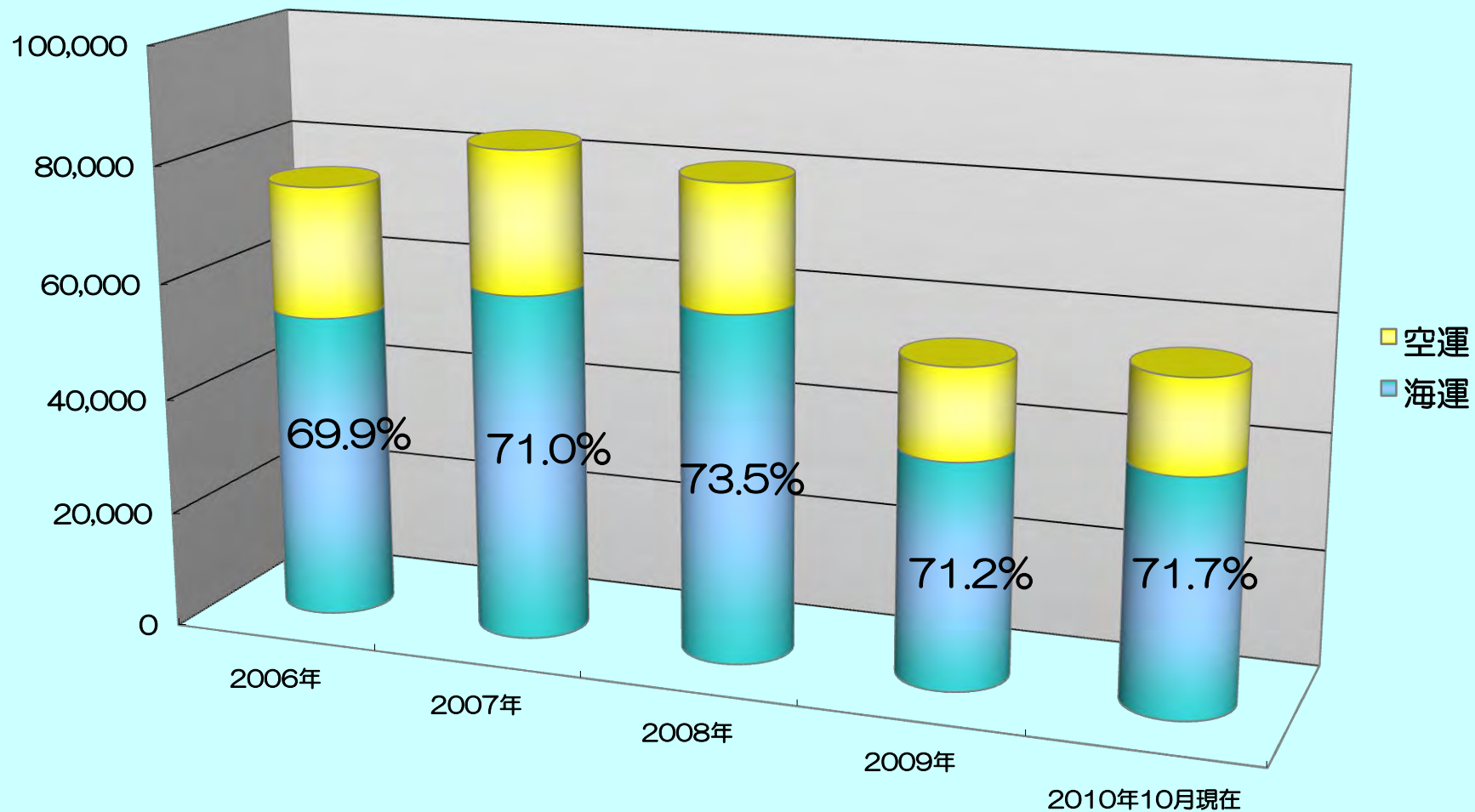
# Ⅲ. マーケット環境



1. 輸出における海運の比率
2. 輸出におけるコンテナ船比率
3. 海上輸送の優位性
4. 輸出全国統計指数と当社売上

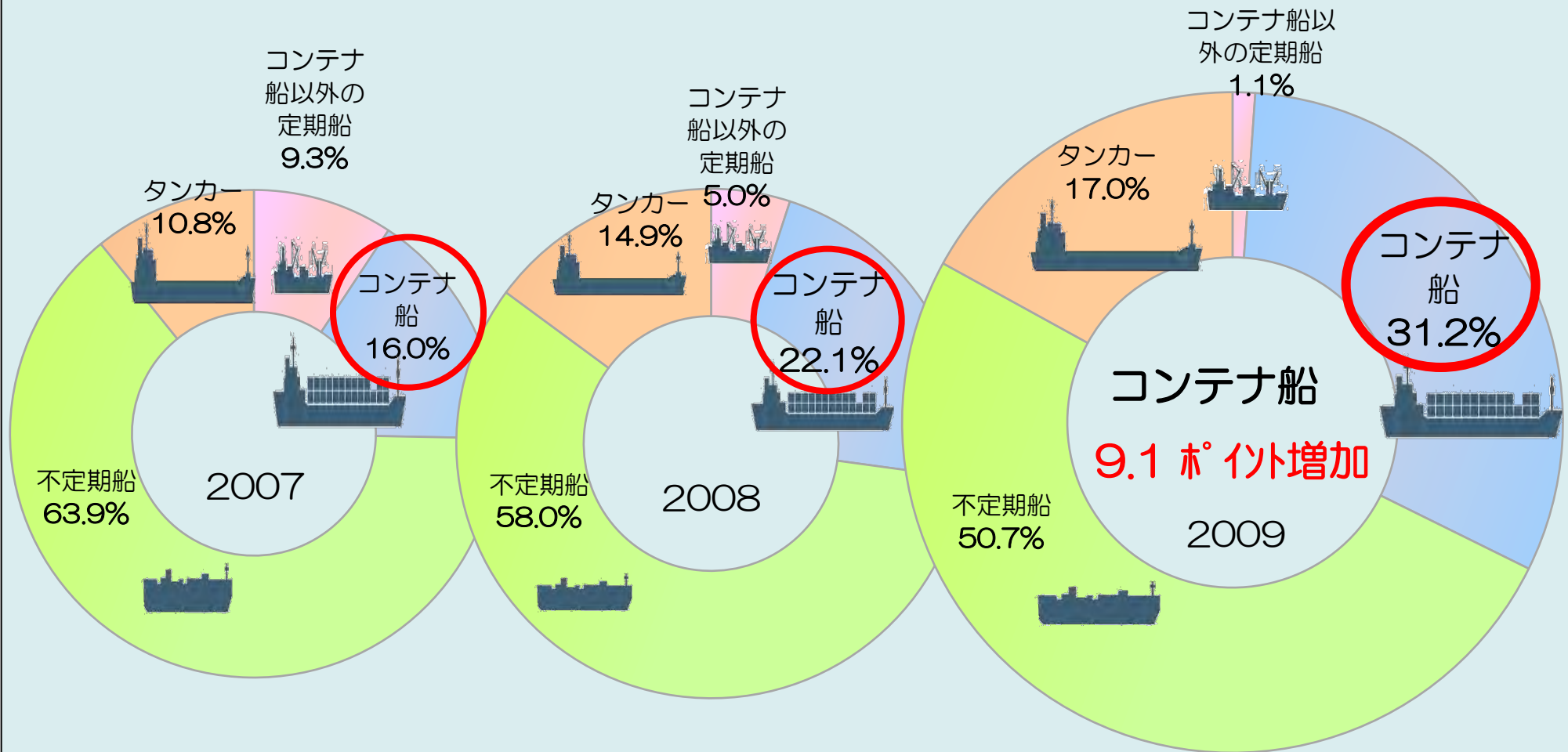
# ◆日本の輸出における海運の比率

(単位：十億円)



出典：財務省「日本貿易統計」

# ◆海運におけるコンテナ船の比率



出典：国土交通省「海事レポート」



# ◆環境面における海上輸送の優位性

貨物1 トンを1 km運ぶ際のCO2排出量 (g-CO2/トンキロ)



航空機

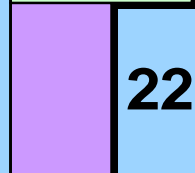


1,472



船舶

**39** CO2排出量は航空機の**1/38**、トラックの**1/4**



22

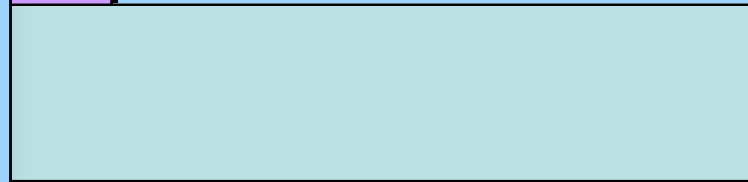


鉄道

環境負荷の小さい海運・鉄道へのシフトが促進される



トラック



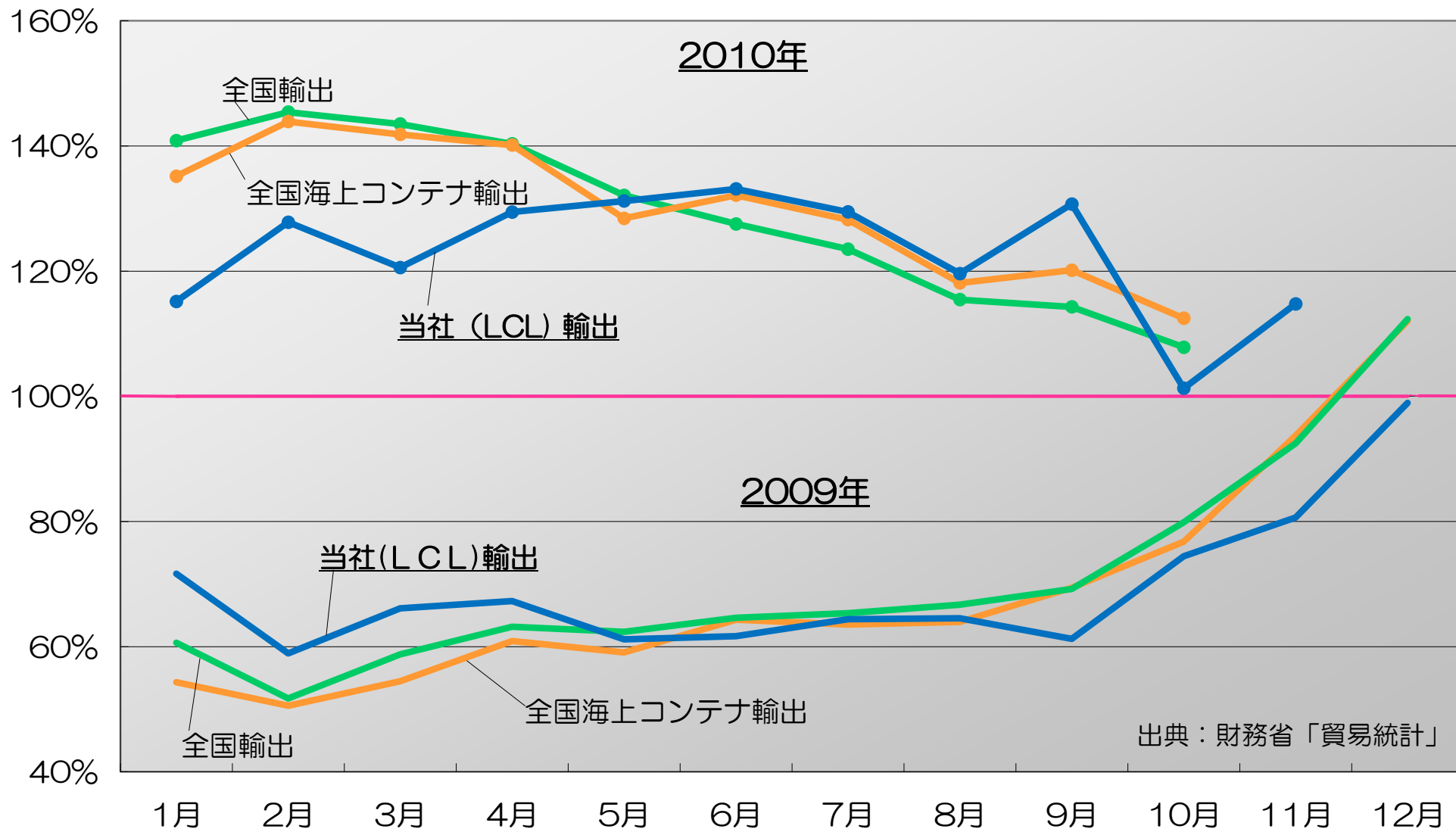
160

出典：平成19年国土交通省

0 50 100 150 1500

# ◆外部環境と当社売上の状況

## 輸出の月次推移状況（対前年同月比伸び率）



# IV. 業界における当社のポジション



1. 輸出LCLで屈指のシェアー
  - ・LCL当社シェアー
2. お客様の厚い支持
  - ・豊富な仕向地と運航スケジュール
3. 当社の強みとその効果

## ◆輸出LCL屈指のシェア

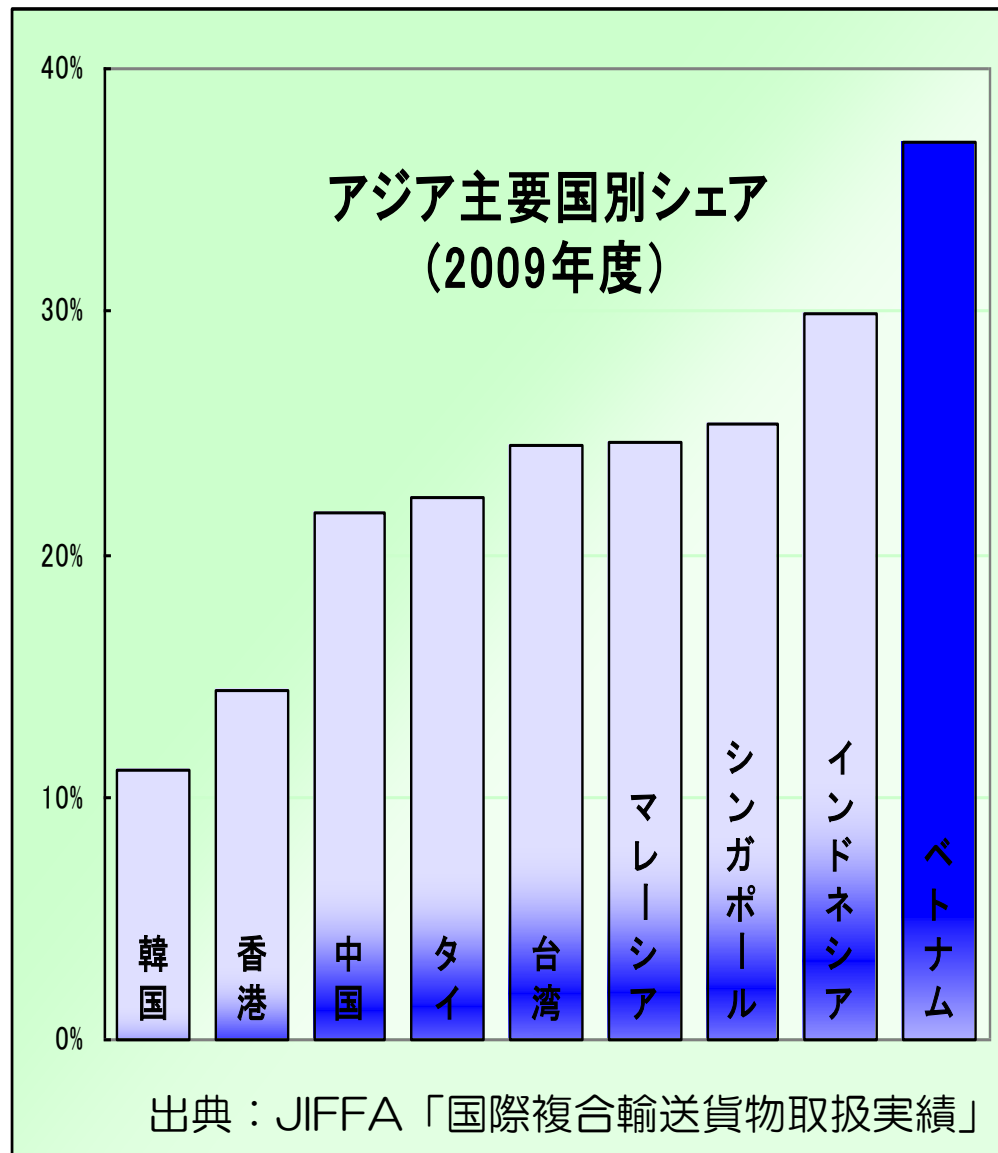
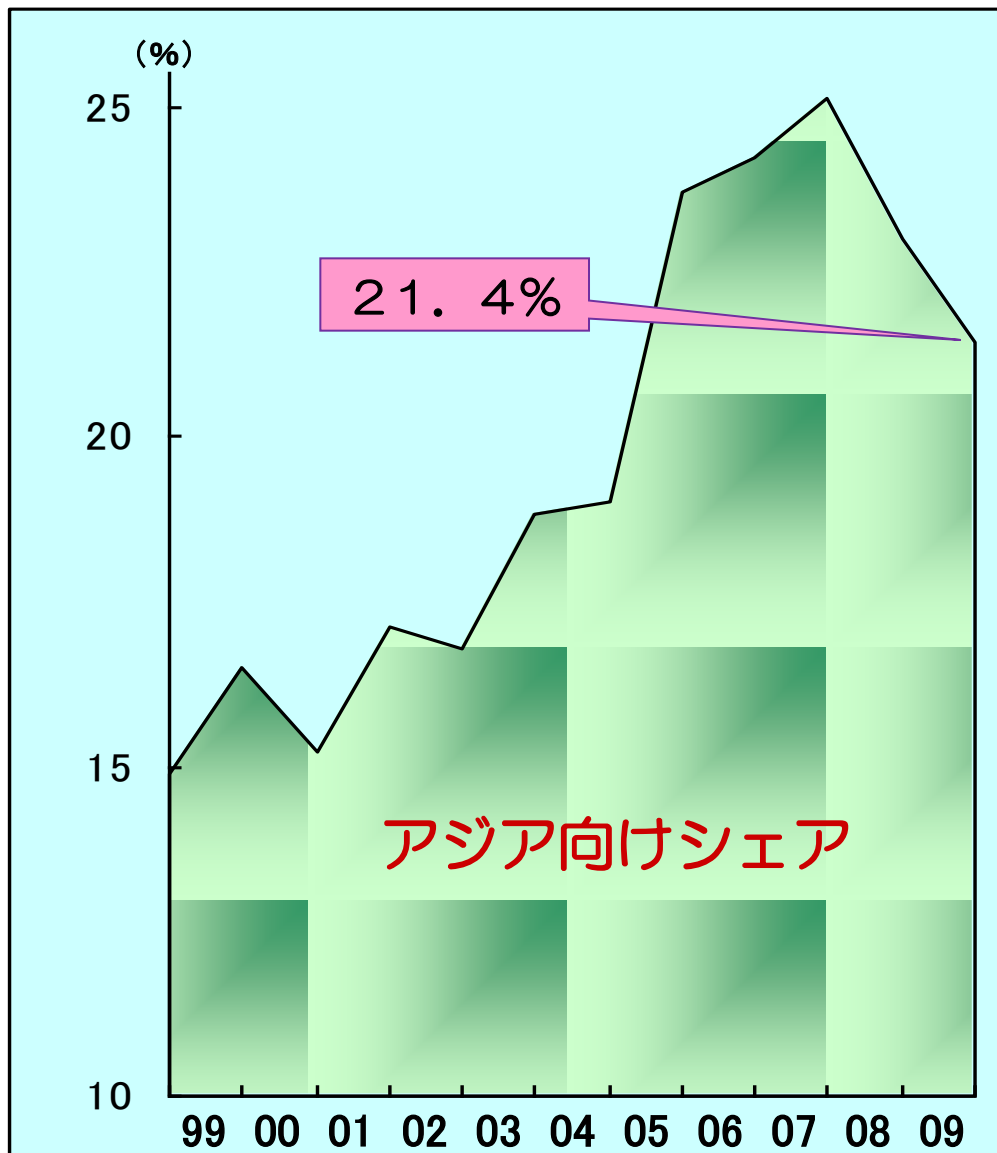
Less than Container Load  
国際海上混載輸送

日本発LCLのリーダーとして

輸出LCL実績で屈指のシェア

出典：社団法人 日本国際ナショナルフレイトフォワードーズ協会（JIFFA）  
「国際複合輸送貨物取扱実績」より当社推定

# ◆日本の輸出混載(輸出LCL)における当社のシェア



# ◆お客様に支持される理由

高シェア獲得

緊急時の迅速な対応

顧客ニーズに  
柔軟に対応

充実した現法・代理店網

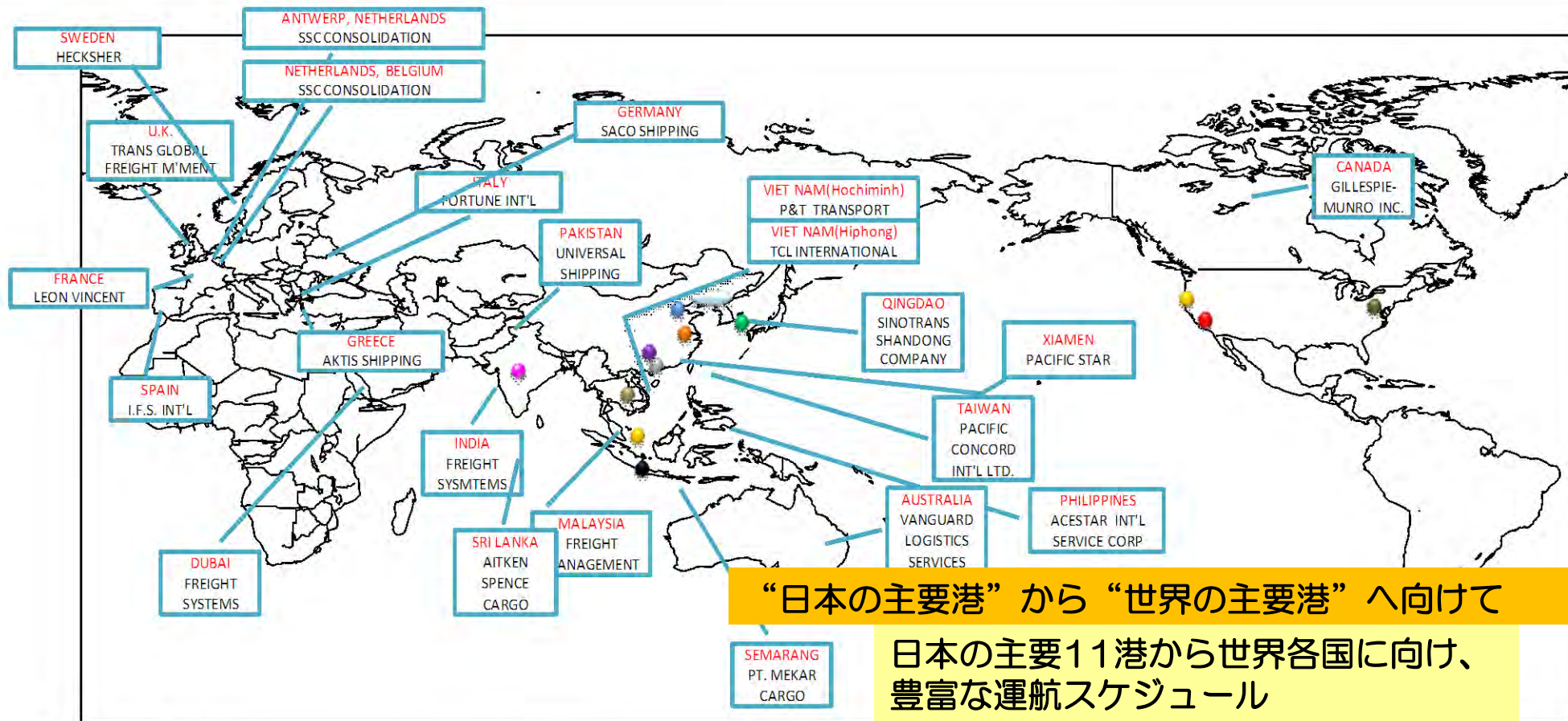
スケジュール、運賃等  
の検索システムの充実

豊富な仕向地

密度の高い運行スケジュール

# ◆豊富な仕向地と密な運航スケジュール

## 充実の現法・代理店網による高品質サービス



### OWN OFFICE

- SINGAPORE
- BANGKOK
- JAKARTA
- HONG KONG

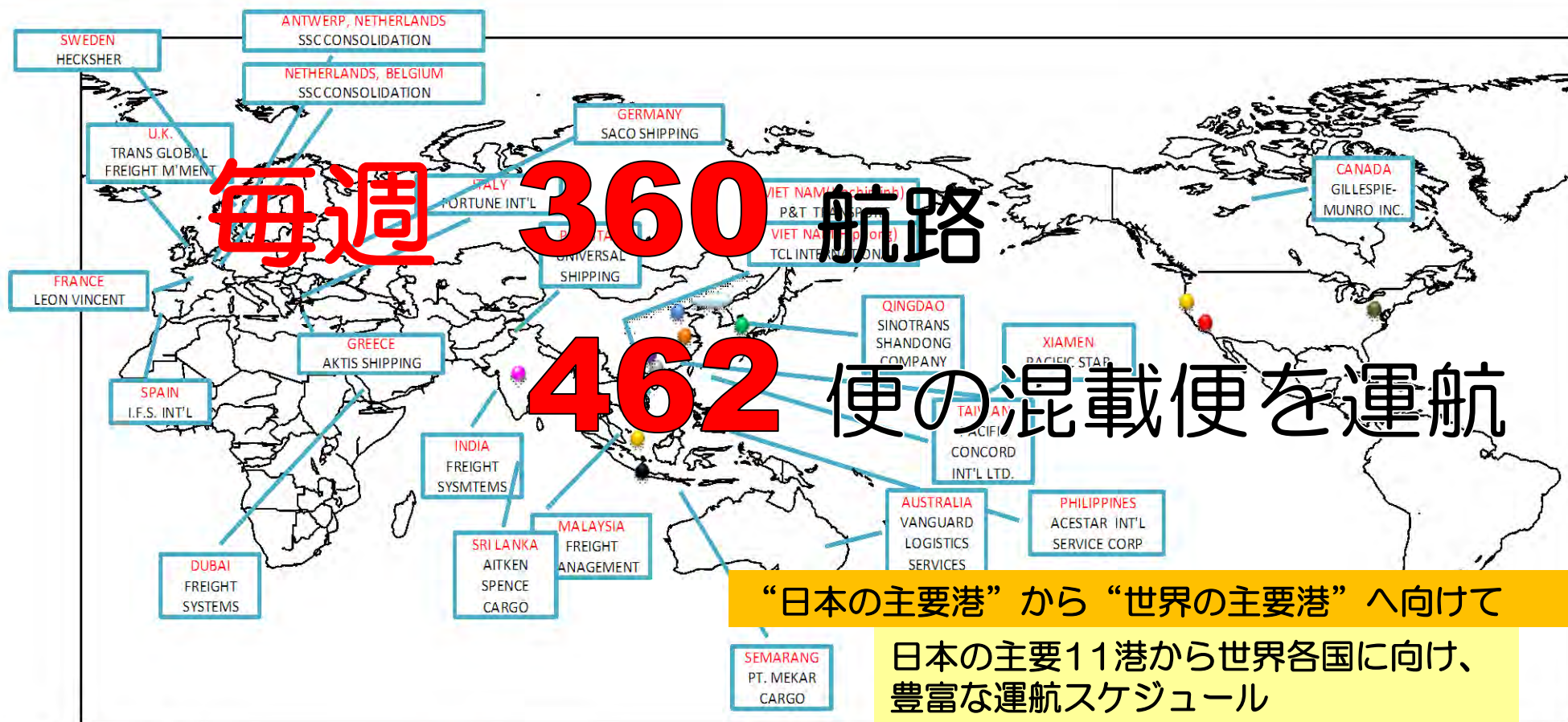
- SHANGHAI
- TIANJIN
- DALIAN
- GUANGZHOU

- KOREA
- LOS ANGELES
- SAN FRANCISCO (CARGOONE)
- NEW YORK(CARGOONE)

- INDIA

# ◆豊富な仕向地と密な運航スケジュール

充実の現法・代理店網による高品質サービス



OWN OFFICE

- SINGAPORE
- BANGKOK
- JAKARTA
- HONG KONG

- SHANGHAI
- TIANJIN
- DALIAN
- GUANGZHOU

- KOREA
- LOS ANGELES
- SAN FRANCISCO (CARGOONE)
- NEW YORK(CARGOONE)

- INDIA



# ◆当社の強みとその効果

## 強み

資産を持たないノン・アセット経営

系列に属さない独立経営

世界各地に現法を配置  
(8カ国・9社)

船会社や倉庫会社のブランド力

輸出を主力としている

アジア市場向けを主力としている

## 効果

高い収益構造

主要船社の世界航路を  
利用できる

キメ細かいサービスで  
顧客の厚い信頼を獲得

高い安全性と顧客の安心

収益性が高い

成長性が高い

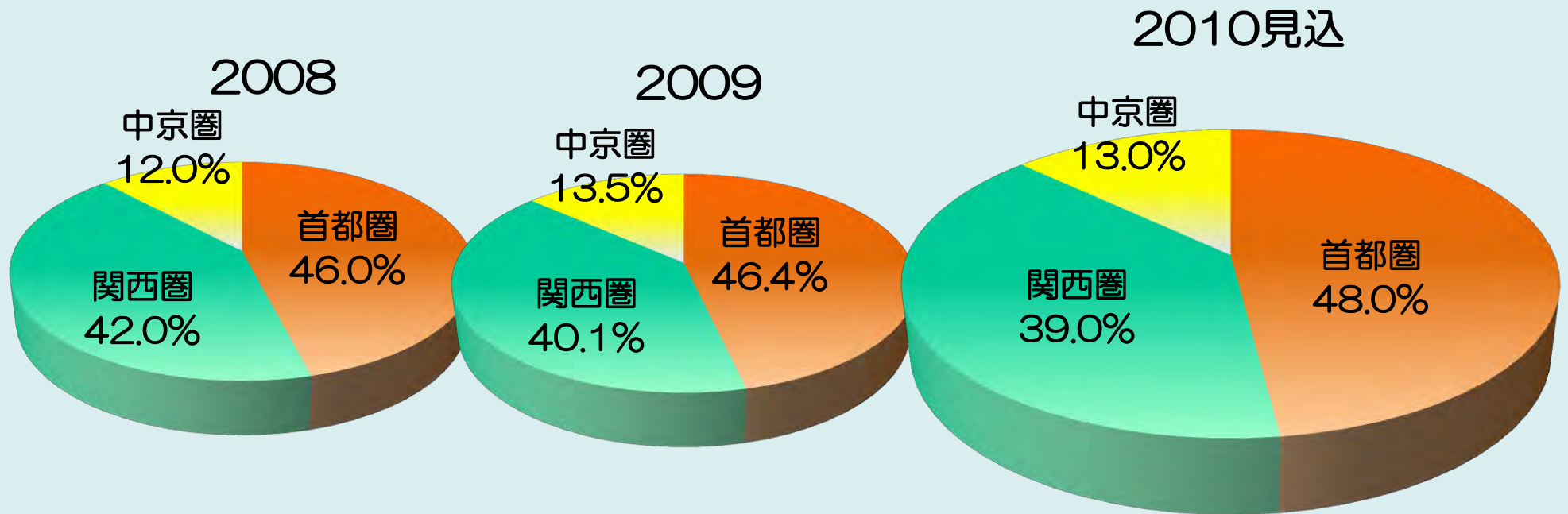
# V. 成長戦略



1. 首都圏・中部圏の営業力強化
2. 輸入ビジネスの強化
3. 海外ネットワークの強化と事業領域の拡大

# 1. 首都圏の営業力強化

## 三大都市圏輸出売上割合



## 首都圏営業組織の強化

2008	2009	2010
27 名	28 名	33 名
1部3課	2部4課	2部5課

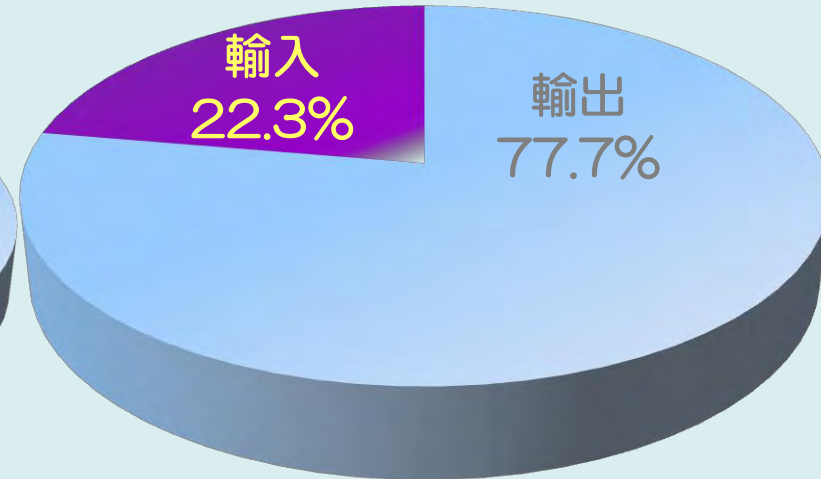
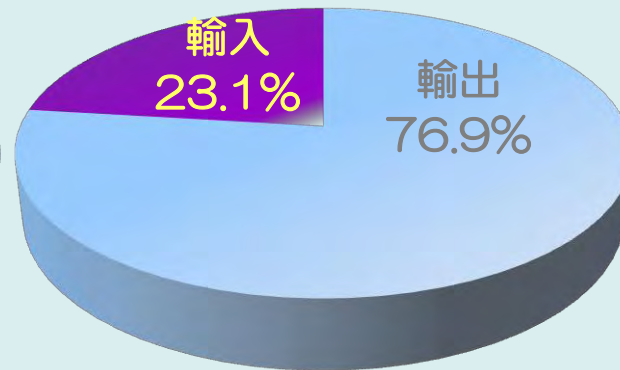
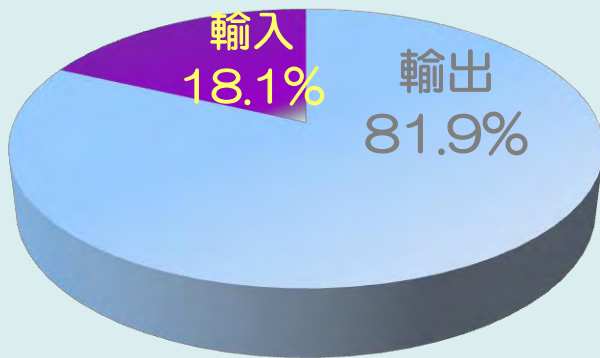
## 2. 輸入ビジネスの強化

### 売上高における輸入売上割合

2010/3Q

2008

2009



#### 輸入強化の理由

- ・ 景気の波に左右されぬ安定的な成長路線の確立
- ・ 海外現法が力をつけることで輸入実績を押し上げ連結業績の底上げをはかる

### 3. 海外ネットワークの強化と事業領域の拡大

- 国際総合フレートサービスの展開  
事業領域の多角化・拡大  
通関・倉庫・空運・陸送
- 拠点展開 → 点から線へ  
東南アジア-西アジア-欧州  
米国西海岸 - 米国東海岸-欧州-南米  
ヨーロッパ新拠点
- M&A、業務提携の推進

通関事業

倉庫事業・トラック事業

3PL事業

日本国内

中国・東南アジア・西アジア

米国・欧州

# ◆ Cargo One Inc. の買収と子会社化

## 会社概要

- ・ 本 社 米国 New York州
- ・ 事業所 New York ・ San Francisco
- ・ 資本金 315千米ドル（当社100%出資）
- ・ 事業内容 国際海上輸送業

## 買収の狙い

- ・ 米国東海岸の拠点設置により当社グローバルネットワーク確立の基礎固め

## 具体的戦略

- ・ 米国内における西海岸（NTL-USA）との連携による機能強化
- ・ 欧州・大西洋航路に向けての拠点作り
- ・ 中南米への中継拠点

7月より当社子会社として事業を開始しました。

# ◆ LOGISTICS PLUS INDIA 社の買収と子会社化

## 会社概要

- ・ 本 社      インド    ニューデリー
- ・ 事業所      ムンバイ・チェンナイ・セーラムほか全7拠点
- ・ 資本金      965千イットル<sup>°</sup> - (当社80%出資)
- ・ 事業内容    国際物流業

## 買収の狙い

- ・ 西アジアへの当社初の拠点設置により、東南アジアと欧州をつなぐグローバルネットワーク確立の新拠点とする

## 具体的戦略

- ・ シンガポール自営倉庫の活用による東南アジア ⇒ 西アジアラインの確立と欧州への中継拠点化
- ・ 成長市場インドにおける多角化事業展開

2011年1月より事業開始予定

# ◆当社の成長戦略

## グローバルネットワークのさらなる充実



■ 日本の主要11港から世界の主要港に向けての豊富な運航スケジュールと、当社現地法人と世界の有力代理店によるネットワークを今後さらに充実し万全の高品質サービスを提供いたします。

- 国内積出港
- 当社拠点
- ▲ 代理店（直行便開設先）
- その他の主な代理店



# ◆当社現法と代理店ネットワーク

## 海外現地法人

9現法・20拠点

- ・ 中国 (4拠点)
- ・ 韓国 (2拠点)
- ・ インドネシア
- ・ 米国 (LA)
- ・ インド (7拠点 2011・1Q予定)
- ・ 香港
- ・ シンガポール
- ・ タイ
- ・ 米国 (NY) (2拠点)



## 海外代理店

21カ国  
(23代理店)

### アジア 9カ国

中国、インドネシア、マレーシア、フィリピン、インド、パキスタン、スリランカ、台湾、ベトナム

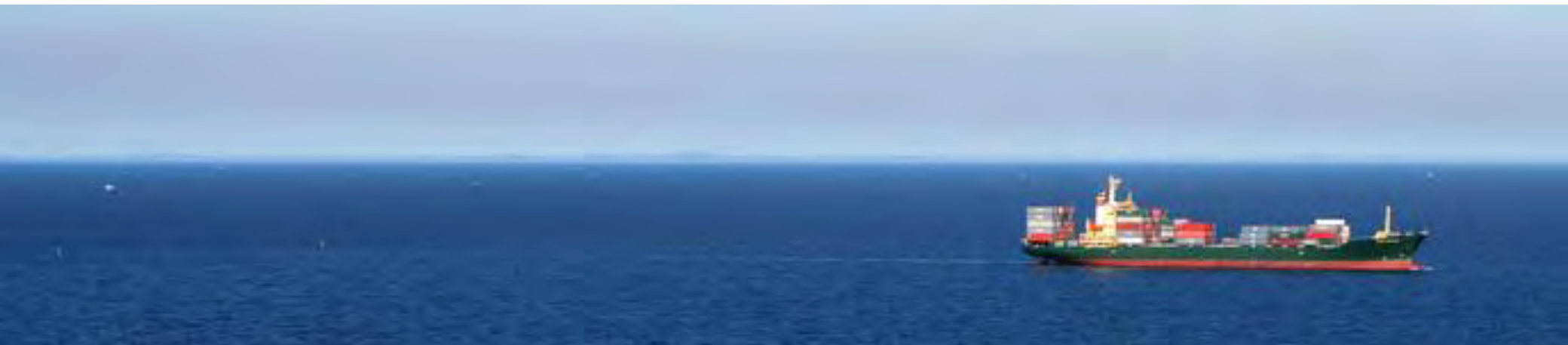
### 欧州 9カ国

オランダ、フランス、ベルギー、ドイツ、イタリア、ギリシャ、英国、スペイン、スウェーデン

### その他 3カ国

カナダ・豪州・UAE

# VI. 業績の推移



# ◆連結業績の推移

## 1. 当期期別連結実績

単位：百万円

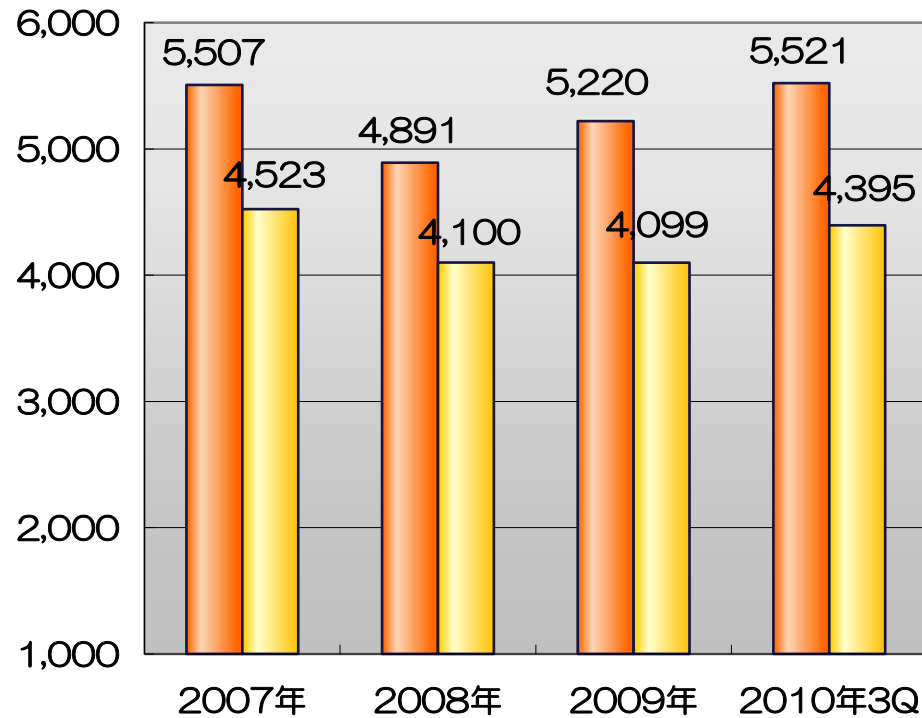
	第1Q	第2Q	第3Q	第3Q累計	前年同期	対前年 増減額	対前年比 (%)
売上高	<b>2,539</b>	<b>2,930</b>	<b>2,898</b>	<b>8,368</b>	<b>6,265</b>	<b>2,103</b>	<b>133.6</b>
売上総利益	<b>852</b>	<b>945</b>	<b>909</b>	<b>2,708</b>	<b>2,320</b>	<b>387</b>	<b>116.7</b>
営業利益	<b>201</b>	<b>278</b>	<b>254</b>	<b>733</b>	<b>386</b>	<b>347</b>	<b>189.8</b>
経常利益	<b>212</b>	<b>283</b>	<b>250</b>	<b>746</b>	<b>543</b>	<b>203</b>	<b>137.4</b>
四半期純利益	<b>124</b>	<b>177</b>	<b>153</b>	<b>455</b>	<b>294</b>	<b>161</b>	<b>154.7</b>
一株当たり 当期純利益(円)	<b>50.89</b>	<b>72.51</b>	<b>62.92</b>	<b>186.32</b>	<b>120.47</b>	<b>65.85</b>	<b>154.7</b>

# ◆連結業績の推移

## 2. 連結総資産・純資産

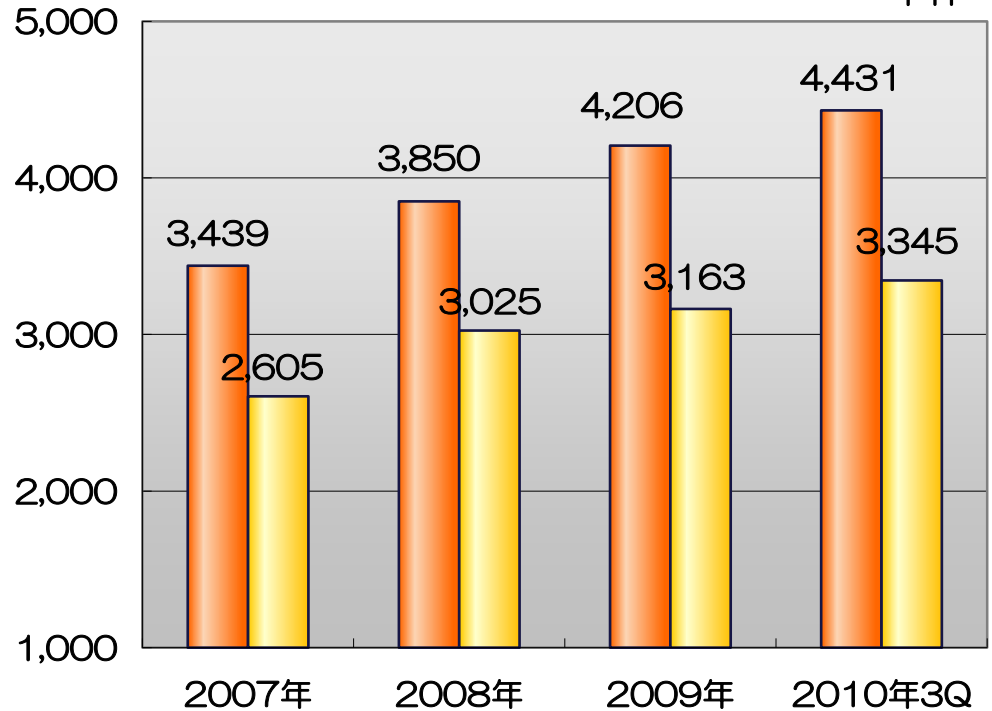
(単位:百万円)

総資産



純資産

■ 連結  
□ 単体



### 健全な財務体質

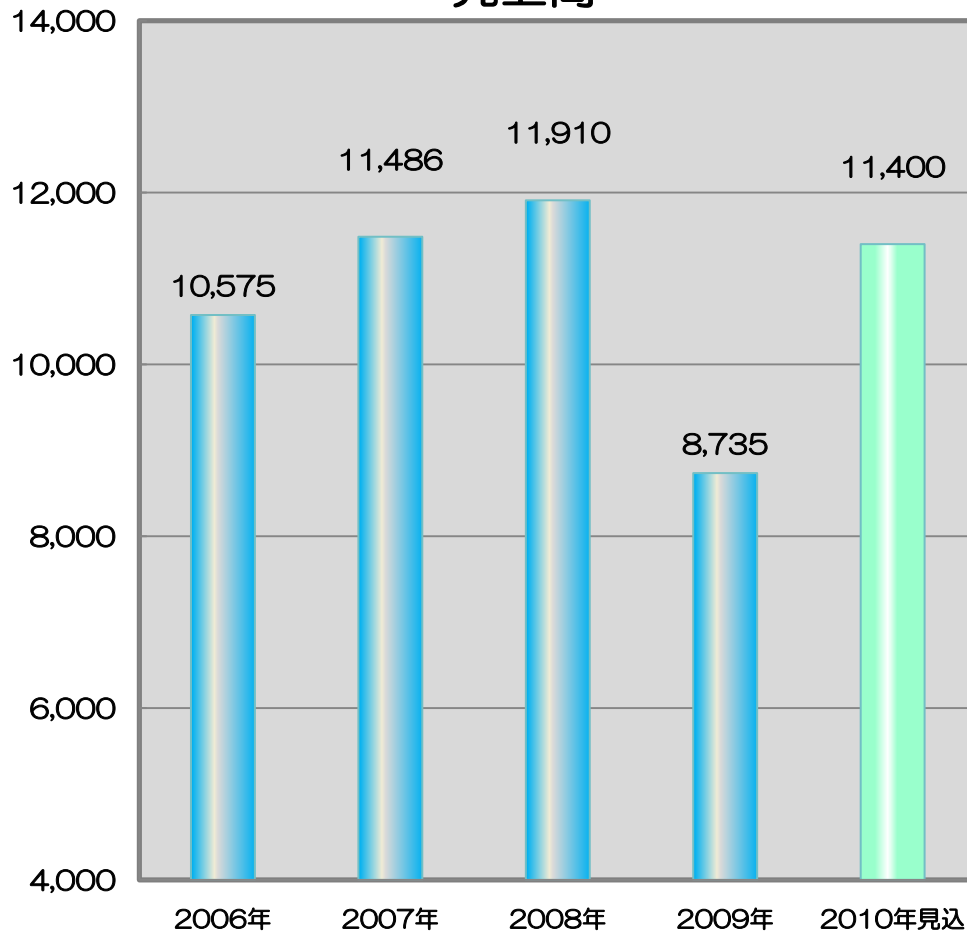
- 高い自己資本率 '08 78.3% '09 80.0% '10/3Q 79.7% (連結)
- 無借金経営 '08より 借入金 0

# ◆通期連結業績の推移

## 3. 売上高と営業利益

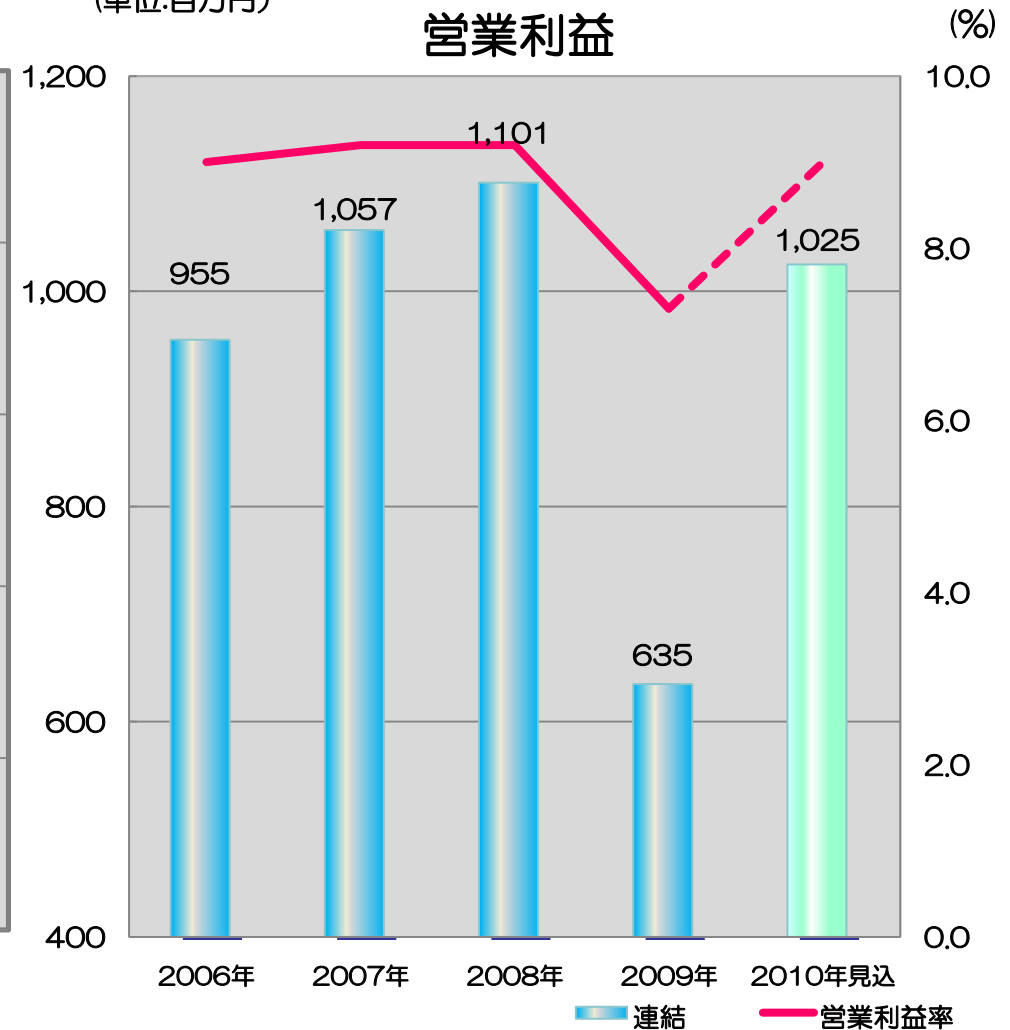
(単位:百万円)

### 売上高



(単位:百万円)

### 営業利益

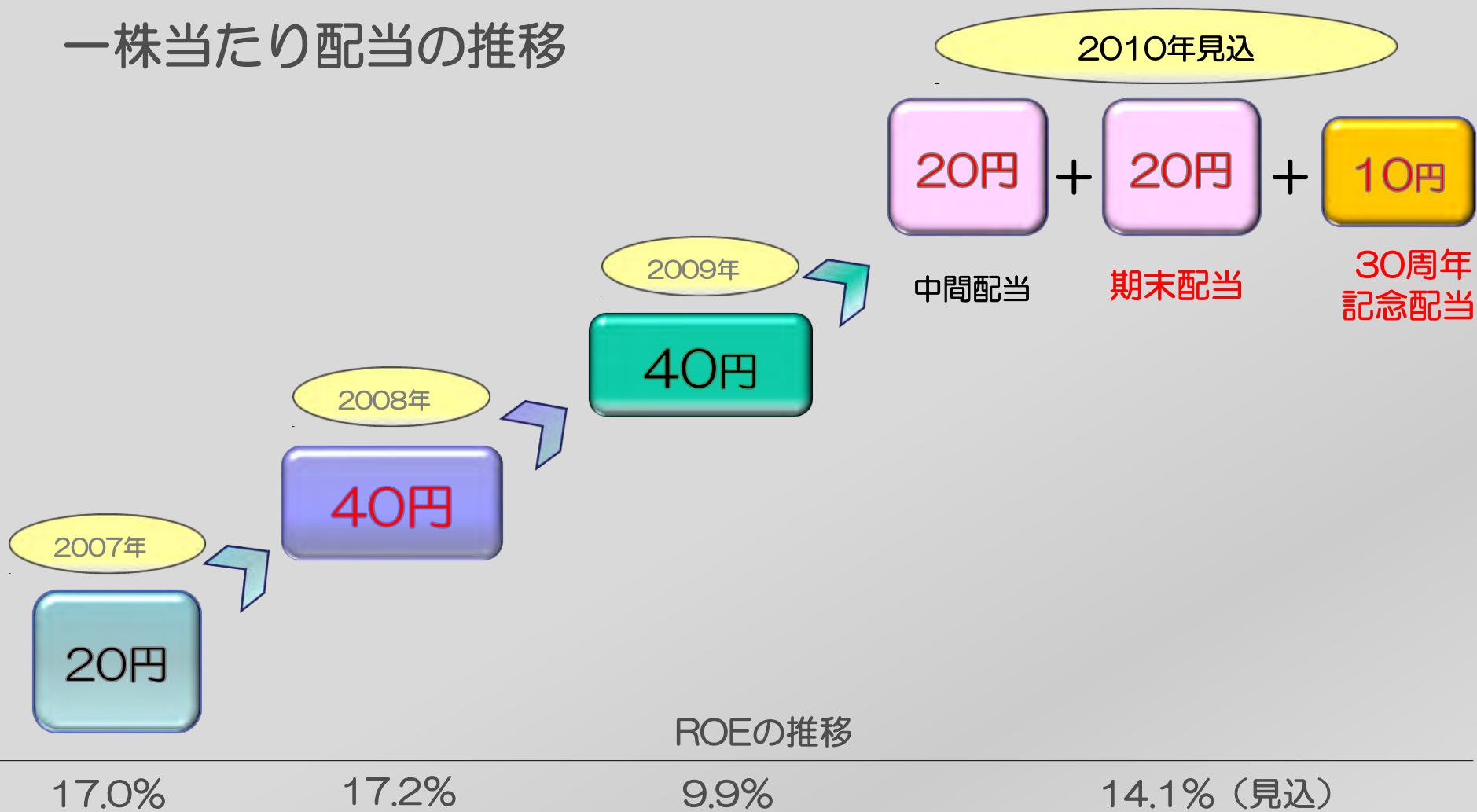


## Ⅶ. 株主還元と株価の推移



# ◆株主への還元

## 一株当たり配当の推移

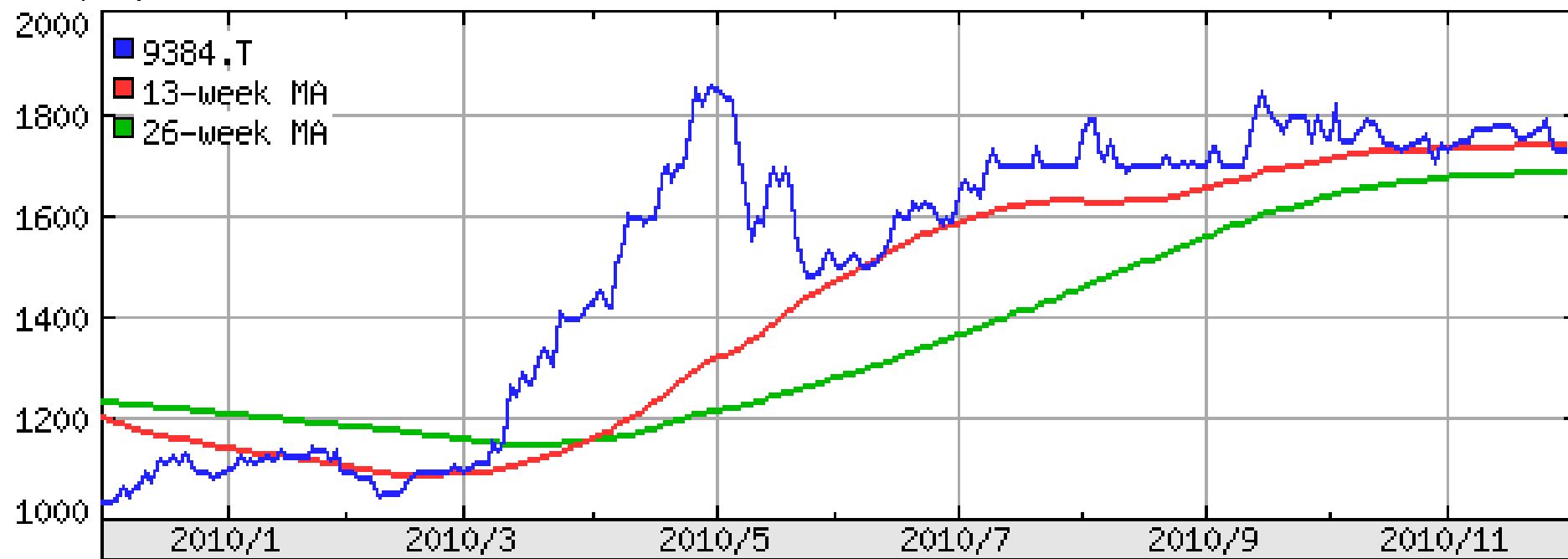


# ◆ 株価の推移

## 上場以来の株価の推移

NAIGAI TRANS LINE LTD.

2010/11/30



2008/11上場

2010.11.30現在



## VIII. 本日のまとめ



# ◆本日のまとめ

## 1. 当社の強み

- ・ノン・アセットの効率経営
- ・高い成長を誇るアジアが主力
- ・世界に向けた豊富な航路数と高品質サービス
- ・安定した業績と健全な財務体質

## 2. 経営目標

- ・首都圏への攻勢と輸入売上強化による売上と利益の成長
- ・グローバルネットワークを確立し、世界屈指の国際総合フレートフォワードナーに

## 3. 株主還元

- ・「株主への還元」は当社重要政策
- ・当期は記念配を含み増配の予定
- ・収益力を強化し配当性向の向上をめざす

## ◆お問合せ先と免責事項

ご清聴ありがとうございました



内外トランスライン株式会社  
NAIGAI TRANS LINES

取締役総務部長 三根 英樹

TEL 06-6260-4800

FAX 06-6260-4719

URL <http://www.ntl-naigai.co.jp>

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは既に具体化している事実を除き、本資料の作成時点で取得可能な情報に基づくものであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。そのため、実際の業績などは本資料に記載の見通しや予想とは異なる結果となる可能性があり、その内容を保証するものではありません。